

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和元年6月)

### ～GW10 連休の反動減やG20 サミットの交通規制などでDIは続落～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性] が2か月連続の低下となった。DIの水準は、好不調の判断の分かれ目である50を7か月連続で下回っている。一方、先行き判断は2か月ぶりの上昇となっている。
- 足元の景気については、梅雨入りの遅れが、各業界で客足の増加などにつながったものの、ゴールデンウィークの反動減による影響が下押し圧力となった。また、月末のG20 サミットに伴う、交通規制や企業の休業、営業活動の自粛などにより、幅広い業種で売上の減少などにつながっている。その中にはインバウンドの減少も含まれる。
- 一方、消費増税の実施が近づく中、一部で駆け込み需要はみられるものの、全体としては限定的な動きにとどまっている。それに加えて、増税を見据えて節約志向が強まっており、生活必需品を中心に悪影響が広がる結果となっている。
- 先行きについては、インバウンドによる需要の下支えにも期待が集まっているほか、消費増税の実施が近づく中、駆け込み需要への期待が高まっている。増税については、節約志向への不安も混在しているが、家電や自動車、雑貨類などで駆け込み需要が増えるという予想がやや優勢となっている。
- 一方、G20 サミットを経て、米国による中国へのさらなる関税の引き上げは回避されたものの、世界情勢の不安定化による悪影響を不安視する声は多い。製造業からは中国向けの荷動きの減少を懸念する声が聞かれるほか、百貨店を中心に、株価の下落による高額品の売行きへの不安の声も広がっている。

#### 「G20大阪サミット」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	一般小売店 [珈琲] (経営者)	・ G20大阪サミットによる交通規制のため、大阪市内での卸売関連の納品が前倒しになっている。
	変 わ ら な い	百貨店 (売場主任)	・ 今月は売上が目標を上回る見込みであり、インバウンド需要やバーゲンセール商品の動きが好調である。ただし、前年は大阪北部地震があり、今年はG20大阪サミットがあるため、今月の売上は、ほぼ前年並みとなる予定である。客は欲しい商品を購入する際、うまくチャネルを使い分けており、日常的なボリューム商品については、百貨店のシェアが徐々に低下している。
		百貨店 (営業担当)	・ G20大阪サミットの影響かどうかは分からないが、20日過ぎ頃から来客数、売上の伸びが鈍化している。これが7月になれば通常の動きに戻るのか、今のところは疑問である。
		百貨店 (サービス担当)	・ 今月もインバウンド効果は変わらず推移しているが、月末のG20大阪サミットに伴う売上減により、苦しい状況となっている。特に、クリアランスセールの立ち上がりはサミットと重なったため、前年実績を大きく下回る状況である。
		百貨店 (販売推進担当)	・ 梅雨入りが遅れるなど、例年よりも暑く、天候の良い日が多かったため、夏物衣料を中心によく動いた。インバウンドは前年並みで、高級ブランド品や時計が引き続き好調となっている。月末のクリアランスセールを前年と同じ曜日に立ち上げたが、G20大阪サミットの影響で同期間は前年比で2割以上のマイナスとなった。最終的には月全体で微増となっている。
		百貨店 (宣伝担当)	・ 世界的な経済不安が続いているほか、消費税増税もあり、客の財布のひもがなかなか緩まないと感じている。今月末にはクリアランスもスタートするが、G20大阪サミットの影響で、周辺ホテルのインバウンド客も少なくなっている。
		その他専門店 [食品] (経営者)	・ 特に大きな変化はないが、G20大阪サミットなどで少し経済が止まっていると感じる。

家計動向関連	変わらない	一般レストラン（経理担当）	・10連休の反動減からの回復も束の間で、G20大阪サミットの開催による大規模な交通規制や、参議院選挙、消費税率の引上げなどで、消費者の購買意欲の低下が少しずつ進んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年は大阪北部地震の影響で収入が大幅にダウンしたため、前年とは比較ができない。今年は一昨年と比べて、各部門とも収入が伸びている。宴会とレストランが特に好調である。G20大阪サミットの影響としては、企業活動や観光面では大幅に悪化しているが、その代わりに、警察関係者の団体による宿泊を大量に受注できている。一方、海外客では、韓国には自粛の動きがみられるが、タイからの客は、航空券が安いこともあって増加している。
		都市型ホテル（客室担当）	・G20大阪サミットという特需に恵まれながらも、6月全体では稼働率が前年よりも3ポイント下がっている。ただし、ホテル全体では宴会やレストランの利用もあり、前年を上回りそうである。
		タクシー運転手	・G20大阪サミットにより、人が余り外出しない。
		タクシー運転手	・6月中旬以降の、G20大阪サミットでの警備による交通渋滞などを懸念していたが、大きな影響もなく、営業収入は前月並みで推移している。
	やや悪くなっている	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今月は前半から苦戦が続き、最後にG20大阪サミットで客足はほぼゼロになった。月末最後の4日間は、売上がほぼゼロに近い状態で終了している。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・例年6月は、ゴールデンウィークと夏休みのはざまでも雨も多く、客の動きが鈍くなる。今年はいまだに梅雨入りしておらず、気温も大きく上がっていないなど、過ごしやすいため、消費の活性化を期待したが、G20大阪サミットがギフト商戦に水を差した感がある。最近はお中元商戦のピークが早まり、7月の前半には終わってしまうが、6月後半の物流が期待できず、ここまでは失速している。
		百貨店（企画担当）	・しばらく増収傾向が続いているが、今月はその要因であるインバウンド売上の増勢が鈍化している。上旬は、中国の端午節の休日に絡んだ航空運賃の高騰が響き、下旬は、G20大阪サミットの開催による周辺宿泊施設の不足や交通規制の影響が響いた。増勢の鈍化は今月だけと考えられるが、来月以降の回復具合に注意する必要がある。また、国内富裕層の外商客の売上も、実態は前年比で横ばいにとどまる。消費税増税を前に増加に転じてもおかしくないが、前月からの株価下落の影響もあってか、積極的な消費はみられない。
		百貨店（外商担当）	・G20大阪サミットによる、市内の厳戒態勢や交通規制、周辺の娯楽施設や飲食店の休業で、消費マインドが下がっている。開催前と開催中は来客数が大幅に減少し、売上に直接的な影響が出ている。
		百貨店（服飾品担当）	・6月の前半は好調に推移し、来客数も伸びたが、月後半はG20大阪サミットの開催が響いた。交通網がストップし、客足が大きく減少したことで、売上のダウンにつながっている。その状況で、各店舗では月前半の伸びに助けられ、前年を上回る結果となったが、前月比ではややダウンの傾向がみられる。一方、G20大阪サミットの影響でインバウンドが下振れした結果、化粧品は何とか前年を上回ったものの、前月よりも伸び率は鈍化している。また、ラグジュアリー関係は10%アップを維持したほか、雑貨関連では季節商材が前年を上回る形で着地している。
		家電量販店（企画担当）	・G20大阪サミットによる物流の遅延や、交通渋滞による集客減のダメージが大きい。それに加えて、今年は今までで最も梅雨入りが遅い。例年はエアコン商戦で工事も進んでいる時期であるが、遅延が予想され、売上への影響も大きくなりそうである。
	変わらない	一般レストラン（経営者）	・月中旬までは順調であったが、後半になるに従い、繁華街、オフィス街共に、来客数は減少した。G20大阪サミットの期間中の仕入れや来客の動きが全く読めず、在庫は過剰となり、余分な人件費もかかっている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・5月末～6月初旬は忙しかったが、6月中旬からは落ち着き出している。G20大阪サミットの開催を控え、前倒しとなる仕事が多かったが、月全体で平均すると通常どおりである。
		金融業（副支店長）	・G20大阪サミットがあり、経済効果が期待できると新聞紙上にはにぎわっているが、取引先からは、受注が3か月前と比べて良くなっているという声はない。多いのは横ばいという声である。
企業動向関連	やや悪くなっている	食料品製造業（経理担当）	・5月の連休後は売れ残りが多かった。6月の後半はG20大阪サミットで物流に影響があり、取引先の動きが鈍くなっている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・G20大阪サミットによる影響か、月末に向けて多くの客が生産調整を行っている。
	悪くなっている	広告代理店（企画担当）	・G20大阪サミットの影響で、営業の自粛ムードが強まっている。改元で盛り上がった頃に比べて、消費者の動きも停滞していると感じる。
		食料品製造業（従業員）	・大型連休明けから受注が激減している。連休中は思ったほど在庫が消化されず、連休前の在庫が市場に滞留している。また、G20大阪サミットの影響で、月末の出荷数も減ってきている。

「消費税増税」関連のコメント（現状判断）

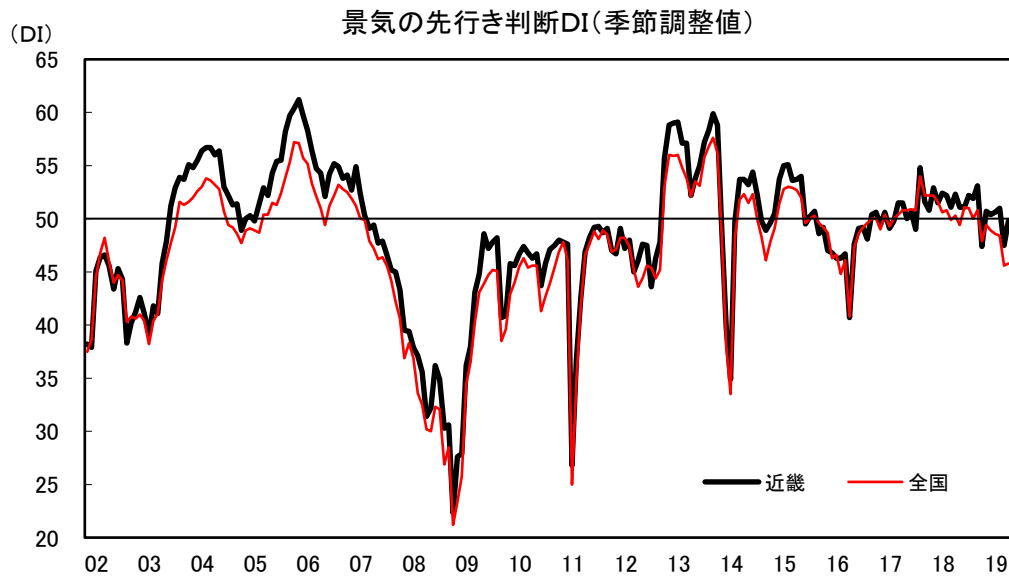
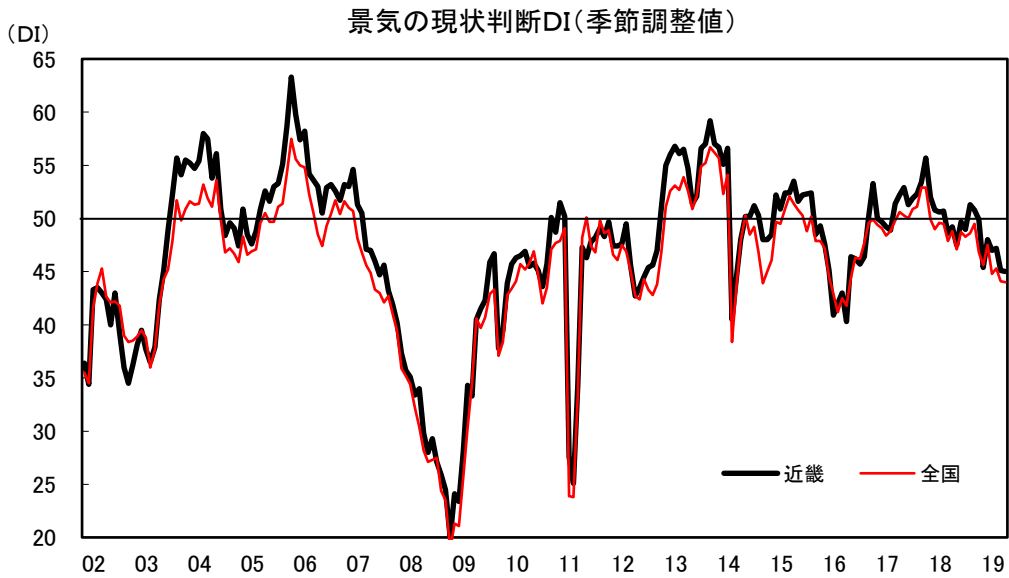
家計動向関連	やや良くなる	家電量販店（経営者）	・消費税増税を前に、高額家電やリフォームの動きが良くなっている。
		家電量販店（店員）	・量販店にとっての景気は上向きである。季節的に暑くなればエアコン需要が高まるほか、消費税増税の時期も近くなり、購買意欲が高まってくる。
		通信会社（社員）	・ボーナス支給月になり、おおむね消費も増えていると感じるが、消費税増税前の駆け込み需要とも考えられる。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・消費税増税の前に、部品交換をしたいという問合せが増えている。

家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・6月は例年よりも雨が少なく、梅雨入りが遅れている。前年は大きな地震が大阪で発生して落ち込んだが、各アイテムの売上前年比は伸び悩んでいる。気候にメリハリがない影響か、雨関連の雑貨はもちろん、夏用の雑貨、ファッションも動きが鈍い。食に関して、暑くなると動く揚げ物の総菜や、クール系の商材も、波のない動きに終始している。また、消費税増税を意識した高額品にもまだ動きは見受けられない。
		百貨店（宣伝担当）	・世界的な経済不安が続いているほか、消費税増税もあり、客の財布のひもがなかなか緩まないと感じている。今月末にはクリアランスもスタートするが、G20大阪サミットの影響で、周辺ホテルのインバウンド客も少なくなっている。
		スーパー（店長）	・前年の大阪北部地震による特需の反動を除くと、大きな消費の変化はみられないが、ランドセルや化粧品などに消費税増税を見据えた動きが出てきている。
		スーパー（企画担当）	・消費税増税前の駆け込み需要で、家具は好調であるが、そのほかの商品はそれほどでもない。トータルで見ると、状況は変わらない。
		スーパー（販売促進担当）	・消費税増税の実施が確定的となったほか、直近の年金の問題などもあり、財布のひもがより固くなったように感じる。既存店の来客数の推移からも、競合各社を含め、伸び悩みの状態が続いている。
		一般レストラン（経理担当）	・10連休の反動減からの回復も束の間で、G20大阪サミットの開催による大規模な交通規制や、参議院選挙、消費税率の引上げなどで、消費者の購買意欲の低下が少しずつ進んでいる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・消費税増税を抑えた、直前の駆け込み需要の動きはほぼない。手厚い増税対策による影響と考えられる。
	やや悪くなっている	百貨店（企画担当）	・しばらく増収傾向が続いているが、今月はその要因であるインバウンド売上の増勢が鈍化している。上旬は、中国の端午節の休日に絡んだ航空運賃の高騰が響き、下旬は、G20大阪サミットの開催による周辺宿泊施設の不足や交通規制の影響が響いた。増勢の鈍化は今月だけと考えられるが、来月以降の回復具合に注意する必要がある。また、国内富裕層の外商客の売上も、実態は前年比で横ばいとどまる。消費税増税を前に増加に転じてもおかしくないが、前月からの株価下落の影響もあってか、積極的な消費はみられない。
		家電量販店（人事担当）	・例年に比べて梅雨入りが遅く、気温の上昇も遅いため、季節商材の販売量が増えない。消費税増税に向けての駆け込み需要も、今のところは感じられない。
		テーマパーク（職員）	・消費税増税の影響が始まっているのかもしれない。数字上は、既に入場者数の減少を含め、買い控えも始めていると感じる。
企業関連	なっている やや悪くなる	住宅販売会社（総務担当）	・消費税増税前の駆け込み需要が落ち着いたことで、売上は前年比で約1割ダウンしている。もう少し様子を見なければ、今後の影響は分からない。
		広告代理店（営業担当）	・決算発表の後は、消費税増税への対策か、広告出稿を控える得意先が多い。

### 「米中貿易摩擦」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	変わらない	百貨店（企画担当）	・今後は米中貿易摩擦の行方に大きく左右される。G20大阪サミットでの首脳会談では協議継続の合意にとどまり、明確な解決の糸口が示されず、当面は先行きの不透明感が拭えない。結果として、国内の富裕層は消費に慎重で、インバウンド売上もこれまでの増勢は期待できないという、今月の状況が続くと予想している。
		百貨店（営業企画）	・米中貿易摩擦が、G20大阪サミットでの会談で終息するぐらいのインパクトがあれば、景況感の改善も期待できるが、現時点では自動車大手がボーナスの削減を示すなど、警戒感が強まっており、個人消費の低迷は避けられない。
		百貨店（特選品担当）	・消費税増税の前に駆け込み需要は出てくるが、増税後が本当に心配である。また、G20大阪サミット後も、世界経済の先行きは米中貿易摩擦などで不透明であり、インバウンドの大きな改善も期待できない。
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・米中貿易摩擦はまだまだ長引くと予想されるなか、10月の消費税増税を踏まえると、10月以降の景気が非常に心配である。特に、消費者の財布のひもが固くなる。
		スーパー（経営者）	・米中貿易摩擦は一旦落ち着いたが、まだまだ先行き不透明である。参議院選挙では老後の年金不安が大きく取り上げられ、消費者の不安をあおっている。夏季ボーナスも前年比で減少しそうであり、明るい材料に乏しい。
		乗用車販売店（経営者）	・今行われているG20大阪サミットで米中貿易交渉が決裂すると、世界経済は低迷し、金融緩和策を各国が打ち出すまでは景気が落ち込む。先行きは、米中貿易交渉の結果次第である。
企業動向関連	変わらない	プラスチック製品製造業（経営者）	・当社はメーカーであり、中国で利用されている部品もある。今後、米中間の対立が受注量に影響することは十分に考えられる。業界全体で国内生産にシフトすることにより、仕事量の確保を進めている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・米中貿易摩擦に加え、イランとの軍事衝突も心配されるなか、日本の立ち位置が非常に難しくなっている。原油価格の高騰も不安材料である。
	くやなる 悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・米中間の関税問題がまだ続くようであれば、受注量は減少していく。
雇用	変わらない	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新聞求人数は縮小均衡の状況であり、この先も大きな変化はないと予想している。ただし、大手輸出企業の下請企業が多い関西では、この先も世界経済の動向に左右される。特に、米中貿易摩擦の行方次第では、上振れと下振れの両方の可能性がある。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		17年			18年												19年								
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
現状判断	近畿	52.9	51.3	51.9	52.3	53.4	55.7	52.0	50.8	50.6	50.7	48.6	49.2	47.5	49.7	49.0	51.3	50.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2	45.1	45.0
	(全国)	50.3	50.0	50.9	51.1	52.9	52.9	49.9	49.0	49.6	49.5	47.9	48.8	47.1	48.7	48.3	48.6	49.5	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3	44.1	44.0
先行き判断	近畿	50.0	50.6	49.0	54.8	51.6	50.8	52.9	51.5	52.4	52.2	51.1	52.3	51.1	51.1	52.2	51.9	53.1	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0	47.5	49.8
	(全国)	50.8	50.9	50.8	54.0	52.2	52.2	52.2	51.6	50.6	50.8	49.9	50.3	49.4	51.1	51.0	50.0	50.8	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4	45.6	45.8

※季節調整値